

項 目	桧森委員意見
第Ⅱ章1. 恵まれた文化資源	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が読んだ時に、共感が持てるように。消えて無いものは入れない。今も残っているものに重点を置くこと。
第Ⅲ章 これからを見据えた方針、取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・方針については、目標的な表現にした方が良い。 ・具体的な取り組みについては、出来れば、誰がという主体を表現した方が良い。
第Ⅳ章 推進体制、効果測定	<ul style="list-style-type: none"> ・アーツカンウシル的なものを考えると良い。 ・「市民を交えた第3者組織で、測定可能な成果を評価する⇒評価結果を市民・行政にフィードバックする⇒これを受けてもっとより良いものを作っていく」というサイクルを制度化する。

市長からの意見、感想等
<ul style="list-style-type: none"> ・具体的要素が入っていないので、散漫に感じられる。
<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災以降の時代性の中で、小田原の文化をどう位置づけるかを具体的に言及しないとイケない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンの目的をある程度明確にしていくべきである。たとえば、 <ul style="list-style-type: none"> ○市民が文化にいつでも触れていける状況 ○経済に付加価値が付けられる状況 ○まちの建物やデザインに小田原の文化が宿っている状況 ○市民のライフスタイルに文化が溶け込んでいる状況 など
<ul style="list-style-type: none"> ・並列的に記載されているので、優先順位をつけていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・10～20年後を想定した時に、時系列に示していく。たとえば、ホール完成までには、何をやっていくのかなど。
<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンで言う文化は何を指しているのかをハッキリと。
<ul style="list-style-type: none"> ・課題については、具体的に迫ってきているものでないといけない。